



## これからの東京に向けて～舩添都知事&都市整備局長に質す！

### 【住宅施策について】

神林議員 質問

住宅は都民生活の基盤であり、少子高齢化の急速な進行や居住形態が変化する中で、将来の動向を見据え、住宅政策を迅速かつ計画的に推進していくべきです。これからの東京都の住宅政策について、知事の見解を伺います。

舩添知事 答弁

都民が適切に住宅を選択できる市場の環境整備や居住の安定確保と共に、お話の通り、少子高齢化・人口減少社会の到来を見据えて、良質な住宅ストックと良好な住環境の形成を図ることが重要です。住宅政策を計画的に推進し、世代を超えて住み続けられる優良な住宅ストックの形成や木密地域の防災性の向上、マンションや団地の再生など、まちづくりと一体となった施策を進めていきます。

神林議員 質問

住宅政策について、地域の課題をもっとも把握している区市町村との連携と都の果たすべき役割について見解を伺います。

都市整備局長 答弁

都の役割は、住宅マスタープランなど住宅政策などの方向性を示すとともに、区市町村を支援し、地域の課題に対応し

ていくことです。今年度は、新たに子育てに配慮した住宅の普及や空き家の活用などに、区市町村と連携して取り組んでいきます。

神林議員 質問

平成二十五年の都内の空き家数は約八二万戸と急増しています。民間事業者の参画を得ながら、空き家を高齢者などの居住の場や地域活性化の場の場として活用することも重要と考えますが、都の見解を伺います。

都市整備局長 答弁

都は今年度、区市町村が実施する空き家の実態調査や総合的な対策のための計画の策定、高齢者や子育て世帯などに民間が賃貸する住宅への改修助成について財政支援を行います。今後民間と連携して、地域の活性化に空き家を活用する取り組みを促進していきます。

神林議員 質問

都営住宅の建て替えに伴い創出される大規模な都有地において、子育て支援・医療・介護施設などの福祉施設の整備のみならず、商業・文化施設や交流施設など、民間活力を生かしたまちづくりを行うことについての今後の展開を伺います。

都市整備局長 答弁

大規模団地の建て替えでは、まちづくりの種地として活用し、商業・医療・福祉などの日常生活を支える機能の集積を図り、豊かな住生活の実現に取り組んでいきます。

神林議員 質問

木造住宅密集地域の不燃化・耐震化については、従来の施策を継続・延長していくこと、公共性・公益性を考慮して対象を重点化すること、助成対象・要件を緩和することなど、応急処置による対策を検討することなど、さらに実効性を上げるための方策を幅広く検討していくべきと考えますが、所見を伺います。

都市整備局長 答弁

住宅の耐震化・不燃化のさらなる方策については、助成期限の延長、マンションに居住を続けながら改修できる方法の提案、老朽戸建て住宅の建て替えにかかる設計費を延べ床面積に応じて助成するなど支援策を改善し、効果的に支援していきます。

(神林茂議員の本会議での質問より一部抜粋)

★その他、「医療・ロボット産業の活性化事業」、「羽田空港跡地について」、「フロンなど環境対策について」質問いたしましたので、神林茂のHPをご覧ください幸いです。



## 高齢者が安心して暮らせる地域社会の実現

昨年12月に発表された「東京都長期ビジョン」から、これからの東京都が進める少子高齢化対策の概要を紹介いたします。

東京都の高齢者人口は、現在の約二七五万人（平成二十五年推計）から、十年後の二〇二五年には約三二七万人へと増加し、それに伴って認知症高齢者も、約三十八万人から、六〇万人へと急速に増加すると推計されています。

慢性的な介護人材不足を補い、適切な医療・介護・予防・生活支援・住居が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築することが、東京都の目的です。

### 【主な施策】

- 一・特養ホーム六万人分
- ・介護老人保健施設三万人分
- ・認知症グループホーム二万人分
- ・サービス付高齢者向け住宅二万八千戸などを十年後の施設到達目標とする。
- 二 サービスの担い手の確保のため、「職場体験・トライアル雇用」「人材バンクシステム」「介護キャリアパスの導入」などの支援を進めて、介護人材と訪問看護師の安定的な確保・育成・定着に努める。
- 三 認知症対策の推進のため、区市町村に認知症支援コーディネーターを配置し、認知症疾患医療センターを設置するなど、早期発見・診断・対応を可能とし、専門医療などの提供に努める。



## 安心して子どもを産み育てられる東京の実現

東京都の保育サービス利用児童数は、毎年一万人以上増加しており、保育ニーズの増加により昨年四月一日現在で八六七二人と増加傾向が続いています。都としては、子育て家庭を支援する取り組みを一層推進して、子どもを安心して産み育てられ、健やかに成長できる東京を実現してまいります。

### 【主な施策】

- 一 認可保育所や認証保育所などの多様な保育サービスを拡充することにより、二〇一七年度末までに待機児童を解消すると共に、その後も待機児童ゼロを継続する。
- 二 病気の時でも安心して預けられるよう、小児科のある都立・公社病院において、病児・病後児保育を順次開始する。
- 三 保育人材の確保定着のため、就職支援・人材育成・処遇改善・キャリアパス導入支援などを進める。
- 四 二〇一七年度末までに、保育士・介護福祉士・社会福祉士などの情報を一元的に管理する「人材バンクシステム」を構築する。
- 五 二〇一九年度末までに、全小学校区に学童クラブを設置し、待機児童を解消する。
- 六 子育てに配慮した住宅供給を促進するため、子育て支援認定制度を創設し、2017年度より約1200



### どうなる？ 羽田空港跡地第1ゾーン

羽田空港跡地第1ゾーンの整備方針（素案）について舛添知事は、神林茂議員の本会議での質問に答えて、5年後の東京オリンピック・パラリンピックまでに、羽田空港跡地開発を概成すると公言いたしました。

いよいよ本格化する羽田空港跡地第一ゾーン（環八、海老取川、多摩川に囲まれた約20haの区域）の大田区整備方針（素案）を改めてご紹介いたします。（下図：6月1日発表大田区資料より）



第1ゾーン土地利用図

## 「さぼーとぴあ」がオープンしました！

平成27年3月1日、大田区に待望の障がい者総合サポートセンター「さぼーとぴあ」がオープンし、障がい者の皆さんの活動拠点が誕生いたしました。

「大田区文化の森」バス停で下車、大森赤十字病院に隣接する「さぼーとぴあ」をみんなで力を合わせて盛り上げていきましょう！



5F 地域交流支援部門
4F 就労支援部門
3F 地域交流支援部門
2F 居住支援部門 自立の為の機能訓練・生活訓練
1F 相談支援部門 相談支援・虐待防止・意思疎通支援等